



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 292

2021/07/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

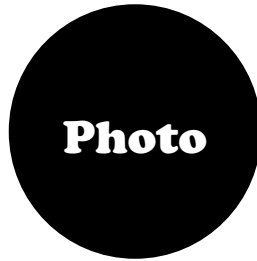
GREEN COLUMN

01. 光らないホタル

02. 緑と青の効果



今月の一枚



「湿原の晩春」

表紙写真・文／鬼丸和幸

気温が高くなる日が続くようになりました。網走湖畔の湿原を訪ねてみると、ハンノキに囲まれた湿原では、一面スゲ植物の葉で覆われ、ミニ草原のような光景が見られました。この時期は、葉が伸びた時期の違いや種類の違い、あるいは日光の差し込む角度により、淡い黄緑、濃い黄緑、緑の葉が混じり合い、美しい帯状のグラデーション模様となり見事です。晩春の心地よい風で、スゲ植物の葉が揺れるさまを見ていると、あと少しで北海道にも夏到来か…という思いに駆られます。

Event. 今月のイベント

特別展「びほろのアケボノ～旧石器時代の遺跡～」 ～ 10月24日（日）

「夏だ！昆虫グッズ！無料レンタル」 7月1日（木）～8月31日（火）

ロビー展「すごい標本！すごい資料！」 7月10日（土）～10月6日（水）

「縄文火起こしデイキャンプ」 7月10日（土）

「草花を活けてみよう」 7月11日（日）

博物館講座（歴史編）「北海道の旧石器文化～白滝遺跡群の発掘成果を中心に～」 7月17日（土）

工作教室「虫よけモザイクキャンドル」 7月23日（金）、24日（土）

Information. 参加者募集

夏だ！昆虫グッズ！無料レンタル

● 7/1（木）- 8/31（金）9:30 - 17:00 ●美幌博物館 1F 受付 ●無料 ●受付で名前と連絡先を記入すること。

「草花を活けてみよう」

● 7/11（土）9:30-12:30 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費 600 円、汚れてもよい服装、持ち帰り用の風呂敷や紙袋など、マスク ●小川季紅（草月流北海道支部）●美幌博物館へ電話申込み（-6/11）。高校生～一般 8 名で締切。

博物館講座（歴史編）「北海道の旧石器文化～白滝遺跡群の発掘現場を中心に～」

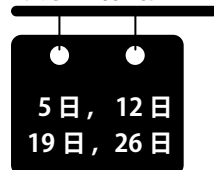
● 7/17（土）16:00-17:30 ●美幌町民会館 1 階小ホール ●無料、マスク ●直江康雄（千歳市埋蔵文化センター）、●美幌博物館へ電話申込み（7/1-16）。中学生以上～一般 50 名で締切。小学生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

工作教室「虫よけモザイクキャンドル」

● 7/23（金）、24（土）10:00-15:30 の間で 30 分ごとに開催 ●美幌みどりの村森林公園キャンプ場（管理棟横）●材料費 200 円、マスク ●城坂結実（美幌博物館）●申込み不要、各回定員 8 名で締切。当日 9:30 より受付を行います。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により、一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上、ご参加ください。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用、持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

光らない ホタル

写真・文／鬼丸和幸



夏の夜空を舞うホタル。ホタル
というと、“光る”“水辺にす
む”生きものとしての印象が強いので
すが、現在世界中で確認されているホ
タルの仲間は約2,000種類、そのうち、
光るホタル（成虫）は約半数しかおら
ず、さらに水中で生活するホタル（幼
虫）は約10種類と、ごく限られてい
るのが実情です。

美幌町内では、ヘイケボタル、オバ
ボタル、スジグロベニボタルの3種
類のホタルの仲間の生息が確認されて
います。その中で光るホタル（成虫）は、
ヘイケボタルのみです。また、ヘイケ
ボタル（幼虫）は水生ですが、他の2
種（幼虫）は基本的に陸生です。

スジグロベニボタルは、体長約8mm、
^{はね}翅が美しい赤色を呈しており、黒い縦
筋を伴っているのが特徴です。スゲ植
物の多い湿地でよく見られます。スジ
グロベニボタルの成虫は、ヘイケボタ

ルと違い、発光器がなく光ることはあ
りません。触角が発達していて、お互
いを“におい”を介してコミュニケー
ションを行っています。ところが、幼
虫は、基本的には陸上で生活していま
すが、エサを探す際に、一時的に弱く
光りながら水中に入り、貝類を捕食す
ることが知られています。このよう
に、スジグロベニボタルは、成虫は光
らないものの、幼虫はヘイケボタルと
同じように、時に弱く光りながら水中
へ移動するという半水生生活をしてい
ます。進化の上で、ヘイケボタルとス
ジグロベニボタルが、どのように分化
していったのか…興味を引くところで
す。

7月10日からスタートする「ロビー
展」では、このスジグロベニボタルに
ついて、解説パネルや実物標本で、ご
紹介する予定にしています。お楽しみ
に！

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

緑と青の 効果

写真・文／久保田結衣



美幌町も初夏を迎え、青々と草木が生い茂る風景が見られるようになりました。太陽のもと、きらめく新緑の色は、溢れる生命力と癒しが感じられることでしょう。

色には、「暖かい」「寒い」…といったイメージから、あらゆる感情を連想させる力があります。個人差はありますが、一般に、緑には癒される効果があるとされています。また、暑い日は寒色系とされる青系統の色で、冷感を感じるグッズを見かけますが、色の心理を利用した工夫が行われています。なぜ緑や青は癒しを与えるのでしょうか。人は、視覚から約70%の情報を得られるとされており、色彩心理の観点から、色は何らかの感情を働きかける作用があるとされています。

ちょっと難しい話ですが、色は光の仲間であり、「可視光線」と呼ばれる帯状の中で、赤黄緑青紫とグラデー

ションを形成し、人は視覚を通じて色を認識します。この帯状の中で、緑は中央に、青は紫寄りに位置します。緑から紫は、明るさが暗めの色なので、赤や黄色に比べると、「落ち着きのある色」と脳が認識します。加えて、緑と青は、植物や空、水など自然界で目にする機会が多い色であるため、鎮静や安らぎを感じる効果があると言われています。

本格的に夏を迎え暑さを感じたら、緑や青を見て、少しでも癒しを得られればと思います。（もちろん水分補給も忘れずに…！）色は心理を働きかける観点で言えば、一種の芸術と言えるかもしれません。秋まで色彩豊かな色の世界を目にする機会が続きます。ぜひ、色の視点でも、芸術を楽しんでみてはいかがでしょうか。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



最近、大好きだったレトロな海外アニメのポスター（レプリカ）を入手しました。100円ショップ等で購入した額を、好きな色に塗って飾っています。部屋に合う雰囲気になって、心が踊っています！（久保田）